

平成22年9月22日

新城市長 穂積 亮次 殿

作手地域審議会会長 安藤 嘉浩

新城市市政運営各般について（建議）

「新生新城市」は、平成の大合併により、旧新城市・鳳来町・作手村が、平成17年10月1日に合併し、まもなく5周年を迎えようとしています。

この間、市は早々に新城市総合計画を策定し、順調な市政運営が行われていることは、誠にありがたく、敬意と感謝を申し上げます。

しかし、一方では多くの住民（市民）が、大きな不安を感じながら、市政を見守り暮らしていることも事実です。

そこで、作手地域審議会としては、地域住民が安心して暮らすことのできる環境を整えることが必要だと考え、地域の特性をいかした具体的な施策・住民が日常生活において、できる限り不安を持たないことを焦点化し、数回にわたる議論を重ねてまいりました。

この議論を別添の通りまとめましたので、必要な処置を早急に講じられるよう、建議します。

別紙

I 作手地域の特性をいかす

「合併をしてよかったのん。」こうした声があちこちで聞かれる作手地域・・・といたるところであるが、実情は、「不安の中での5年間」であった様に感じられる。

行政の方々も3地域の住民が、住みやすい市政をと様々な手立てを講じていただいている。しかし、住民の気持ちを一気に変えようとするとう無理が生じることも確かである。その無理が少しずつ出ているように感じられる。

合併をしたのだから、平等にやるのが第一だ。・・・と平等の名のもとに、作手地域独自で長い年月かけて築いてきたものが勢いを失くしつつあるように思われる。例えば、地域を動かす地区区長会、住民の生き生きパワーを全開させる各種行事、つくで祭り・サマカン・古城祭り等々である。

市税を一律に、〇〇料を平等にと数値で一律や平等にできる部分がある半面、思いや気持ちである心を一律、平等にはできない。「新城地域、鳳来地域にはないことだからやらないで。」ではなく、「作手地域で長年培ってきた良いことは続けよう！」の思いを行政面でも持っていたきたい。それが、地域住民のやる気に、活性化に、つながっていく。

また、作手地域は「愛知の軽井沢」と言われるように、標高530mの高原にあり、澄んだ空気、さわやかな風等の高原気候が特徴である。加えて、人情味あふれる住人、そして中間湿原等の豊かな自然や森林資源、おいしい水で育てたミネアサヒ米、高原野菜等がある。

こうした素晴らしい環境を持っているにもかかわらず現状は、高齢化がどんどん進み、人口減に歯止めがかかなくなっている実態である。

無策のまま過ぎてはならない。作手地域の持っている宝である、物的資源、人的資源を有効に利用した積極的な定住対策・過疎対策を講じることが急務であると考えます。

作手地域の特性を生かす行政、3地域それぞれの特性をいかす行政が、『市民（ひと）がつなぐ 山の湊（みなと） 創造都市』 「新たな公共が導く市民自治社会の創造」とうたわれている新城市総合計画における基本理念の基盤になることは、間違いのない事実である。

それゆえ、それぞれの地域の特性を生かした行政を進めていただきたい。

II 市政運営全般に関する件

1 行政と市民の信頼関係（情報の共有）に関する事案について

【問題点】

① 地域住民に行政の動きが伝わりにくく、また、地域住民の要望等も行政に伝わりにくい。

地域住民を動かす大きな組織である区長会が現在は機能していないことが考えられる。現状は、回数も、年2～3回しかなく、市の新規事業・各地区の要望等を話し合う協議の場としての機能を持つことがない。単なる簡略な伝達機関となっている。

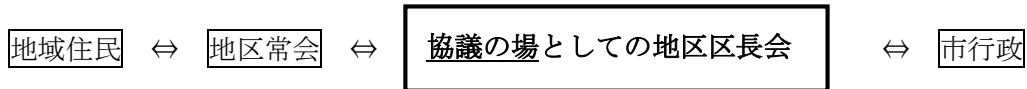
(例 職員地域担当制度等は、指針がはっきりわからないままのスタートであった。)

- ② 支所に権限がないことから、行政の動きが遅い→不信感

[改善要望]

- ① 区長会を協議の場として、設定していくことが住民の不安要素を少なくする一つの方法であることから、地区区長会を強固にしていきたい。

(問題設定により、回数・時間等を配慮する)



長年培ってきた作手・鳳来の方式をすべて排除するのではなく、良い点を残しながらその地域にあった方式で行政を運営していただきたい。

- ② 支所に権限と予算配分をする。2で述べる地域自治とも関わるが、地域でできることは地域に任せる市政にしていきたい。

2 地域自治の実現に関する事案について

[問題点]

- ① 地域計画の策定・自治区の設定と関連条例の制定・自治基本条例の制定・職員地域担当制度・行政区の再編はいずれも深い関連を持っている。中でも「行政区の再編」は、20年度末に市より提示されたが、検討の場もなく住民は不安を持っている。
- ② 支所のあり方も同時に考えて行かなければ、現状の支所のままでは地域自治が進まないではないか。

[改善要望]

- ① 自治区の関連条例案を早急に示して、地域住民に検討する機会を与えていただきたい。
- ② 職員地域担当制度は、市職員の関わり方次第で大きく前進することがわかってきた。市職員の意識改革をお願いしたい。
- ③ 3地区が独自性を発揮した地域自治にするために、支所の機能の活性化とそれぞれの地区に権限と予算配分をしていただきたい。

3 学校再編に関する事案について

[問題点]

- ① 作手地区4小学校の児童数の減少は著しく、入学児童が1名または、0という小学校も出ている。あまりにも少ない児童で構成する学級・学校においては、社会性、コミュニケーション能力等を養う上で弊害も大きく保護者の不安もある。
- ② 協和小学校においては、耐震性において問題があり、安全面で不安がある。

- ③ 学校統合に関わる問題では、協議をする機関が個々に動いているので、大局的に考える組織がない。

[改善要望]

- ① 現在、PTAの組織が統合への動きを考え、住民のアンケートをとるなど積極的に動き出しているが、地域住民の思いを何時までに行政に伝えれば前進するのか定かでない。教育委員会から出された統合の指針は、具体的な動きが示されず、先が見えにくい。市教育委員会として、具体的な案を提示されたい。(資料1 名古屋市統合参考例)

4 公共施設のあり方検討に関する事案について

[問題点]

公共施設のあり方について検討がなされているが、地域にとって必要な施設の廃止、使用料の値上げ等がなされれば、地域の活性化のさまたげになる。

[改善要望]

公共施設のあり方は、それぞれの地域の公共施設を地域できちんと洗い出し、全市共通にできる部分、地域の実情を考慮する部分を個々の施設で出していく必要があることを配慮していただきたい。

Ⅲ 地域活性化に関わるインフラ整備

1 国道301号の未改良区間の改良促進について

[問題点]

国道301号は豊田―浜松を結ぶ重要路線である。作手地区にとっては、生活面・防災面において無くてはならない道路となっている。東海環状自動車道松平インターの利用車も増加している。作手地内はすでに2車線となり、安全であるが、岡崎市地内約2km(資料2 旧額田町地内・別紙地図及び写真参照)においては、1車線のみである。

近年の交通量の増加、カーブ、路側の立木、不安定な側溝等により、常に危険な状態である。

[改善要望]

新都市の定住対策、観光対策、都市交流対策等を進める上で、新都市民の多くの利用を考え、2車線改良にむけて、市当局から関係機関へ強い要望をしていただきたい。

2 県道437号(一般県道清岳―新城)通行不能区間の早期解消について

作手南部地域にとっては、この路線は大変重要である。山林管理、住民の生活道路等としての利用を考え、現在、林道の設置で申し込んである。田代地区は現状では、限界集落であり、災害時には孤立集落となる恐れがある。こうした事態を解消するためにも、市当局から関係機関への働きかけをお願いしたい。(資料3 別紙地図および写真参照)

2010. 9. 1

朝日新聞

名古屋 小規模9小 統合計画

名古屋市教育委員会は31日、各学年に1クラスしかない小学校9校を近くの小学校と統合する計画を、市議会教

育子ども委員会で明らかにした。2011〜16年度の間を実施する。

市教委によると、今後6年間、1クラスの状態が続く9校を統合する最優先校にする。相手校は、同じ中学校区内で隣接する小学校であることや、通学距離がおおむね2キロ以内であることを基準にしたという。今後、保護者や地域住民と協議して、統合後の校舎の位置などを決めていくという。具体的な統合計画は次の通り。(太字は各学年1クラスしかない小学校)

西区 幅下、江西、那古野の3校を統合▽南押切を榎、栄生と統合

中村区 豊臣を諏訪と統合
中区 御園を名城と統合
昭和区 白金を村雲と統合
南区 大生を宝と統合
天白区 高坂を相生と統合

資料2 国道301号 (岡崎市旧額田町地内)



大型トラックの利用が増え、すれ違いが困難である。



側溝が無い区間、あっても側溝の蓋が無い区間があり、寄りすぎて落輪する車もある。

資料3 県道437号（一般県道清岳—新城）



長年の悲願である全線開通に向けてぜひ進展への努力をお願いしたい。